

I 学校の概要（平成15年4月現在）

河辺町立河辺中学校					
	1年	2年	3年	計	教員数
学級数	2	3	2	7	16
生徒数	69	88	76	233	

II 研究の概要

1 主題

研究主題 英知を磨き、よりよい生き方を求めようとする生徒の育成  
 — 子どもとともに、子どもにそって —

2 内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・全教科  
 確かな学力を付けるには、一部の教科だけでなく全体での取り組みが必要であるため

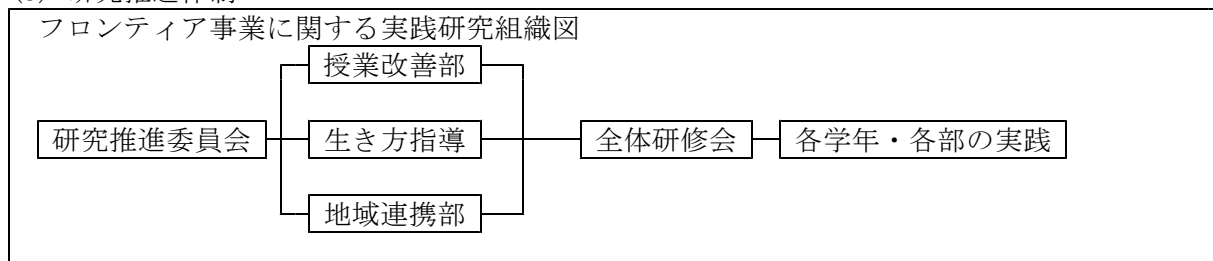
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>○研究課題 確かな学力の向上を図る</p> <p>○仮説 一人一人に力を付ける工夫をすることによって確かな学力が向上するであろう。</p> <p>① 生徒の多様さに応じた、コース別学習（習熟度別など）を工夫する。</p> <p>② サポートタイムなど、一人一人の必要性に応じた学習の体制をつくる。</p> <p>③ 読書活動や総合的な学習の時間、特別活動など自己の生き方に重点をおいた活動を工夫する</p> <p>④ 小・中連携を通し、生徒を一貫して育てる体制をつくる。</p> <p>○研究内容・方法</p> <p>〈実態把握について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での観察や学力調査、学習意識調査など多方面から行った。</li> </ul> <p>〈指導方法・指導体制の工夫改善〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に個人差の出やすい数学と英語を窓口として、コース別学習（習熟度別、課題別など）を実施し、生徒一人一人に対応することとした。また、数学、英語での実践をもとに、各教科において次の点を課題とするなどして共通理解を図って取り組んだ。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                 習熟度や興味・関心に応じた指導                  つまづきへの支援（アドバイスコーナー、多様な学習材の準備など）                  補充・発展（単元の中に、補充・発展の時間を設置、休日課題など）             </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その他に選択教科における多様なコースの設置、基礎力を付けるためのサポートタイム実施、読書活動の推進、学校外の専門家や地域の人材による指導や支援、年間指導計画に記入欄を設け、生徒のつまづきへの対応を書き込んでいくことなどを進めた。</li> </ul>
--------	---

平成15年度	<p>○研究課題 確かな学力の向上を図る</p> <p>○仮説 生徒の実態を把握し、生徒主体となる学習活動を工夫することによって、分かる楽しさ・できる喜び、学ぶ意欲、努力し続ける心を持ち、確かな学力を身に付けようとする生徒が育つであろう。</p> <p>○研究内容・方法</p> <p>昨年度は、授業改善とともに学習環境整備にも力を入れてきた。今年度は授業改善に焦点化し、実践研究を進めてきた。生徒の実態や身に付けたい力などから授業における目指す生徒の姿や授業改善共通実践事項などを設定し、特に個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善、教材開発、評価の工夫などを通して確かな学力を身に付けさせる取り組みをしてきた。</p>
--------	--

平成16年度	<p>○研究課題 確かな学力の向上を図る</p> <p>○仮説 生徒の実態を把握し、生徒主体となる学習活動を工夫することによって、分かる楽しさ・できる喜び、学ぶ意欲、努力し続ける心を持ち、確かな学力を身に付けようとする生徒が育つであろう。</p> <p>○研究内容・方法 平成15年度の体制を継続し、定着させる。 研究のまとめと課題の確認</p>
--------	---

### (3) 研究推進体制



## Ⅲ 平成15年度の成果および課題

### 1 研究の成果

#### 【授業における目指す生徒の姿の設定】

学校教育目標、本校生徒の実態、今日的な課題を踏まえて、次のように具体的に設定した。

- 今学習していることは何かをとらえている姿
- 意欲的に、見通しをもって学習に向かう姿
- 学習したことを身に付けたり、生かしたりする姿
- 自分の考えをもち、友と学び合う姿
- 自分の力を見つめ、努力する姿

#### 【授業改善のための共通実践事項の設定】

- ① 学習の意欲付けとなるように、必要感のある課題設定をする。
- ② 課題意識をもたせるために、生徒のめあてが明確となるように工夫する。
- ③ 一人一人の学びを成立させるきめ細かな工夫や支援を行う。
- ④ 学び合いのある学習をすることによって、思考力、表現力を身に付けたり、学習したことを確かなものとしたりする。
- ⑤ 自己評価の工夫をすることによって、自分の力を見つめさせるとともに、その後の教師の指導に生かす。

特に、③、④を重点事項として取り組んだ。

#### 【授業での実践】

##### ① 必要感のある課題設定

《国語》単元の初めに生徒と一緒に学習計画を立てるようにした。

→課題を解決し、伝えようとするなど、課題を自らのものとすることができた。

《社会》単元を通しての課題を設定し、解決する中で、学習内容を習得できるようにした。

→学習を意義あるものととらえる生徒が増えた。

《理科》単元間で前単元の振り返りと次単元へのレディネステストを行い、その中に次単元で中心的な内容にかかわる問いを入れた。

→なぜという疑問をもち続ける生徒が増えた。

《英語》できるだけ生活に関連した場面設定をする。

→意欲をもって取り組んだ結果、文法の定着がみられた。

《技家》日常生活や地域、季節、行事との関連を重視した課題を工夫した。

→実践につなげようとする積極的な姿勢が生まれた。

##### ② めあての明確化

《国語》自分のめあてを明確にするために学習カードに記入する欄を設けた。

→めあてが明確になり、意欲が高まった。

《社会》本時のねらいを『今日がんばること』として生徒に提示した。

- これまでよりはめあてが明確になった。
- 《数学》具体物を操作したり、観察したりして生徒に驚きや疑問をもたせた。  
→自分のものとしてとらえることができるようになった。
- 《理科》学習シートにめあてを記入する欄を設けた。  
→意欲的に実験や観察を行う場面が見られた。  
単元全体を見通した図示シートを用意した。  
→目標をもって学習に向かう姿勢が見られた。
- 《英語》1単位時間ごとの学習のめあてと、さらに3段階程度の具体的な自己評価規準を提示して、各自に達成目標をもたせた。  
→意欲の向上につながったとともに、課題意識をもつことに有効であった。
- 《美術》明確なゴールが分かるように本時のめあて（評価規準Bの状況をもとに）を設定した。  
→学習に見通しをもって取り組み、伸び伸びと制作できるようになった。
- 《保体》試しの運動やゲームを行い、その反省を生かすような目標を考えさせ、そこから課題設定へつなげた。  
→個人の反省を引き出すところまではできている。
- ③ 一人一人の学びを成立させる工夫や支援
- 《国語》目的達成のための手順や自分の向上が分かるような学習カードを工夫した。  
→主体的に取り組むようになり、読解力や表現力の向上が見られた。
- 《社会》課題解決的な単元構成を心がけた。  
→知識だけでなく、事象のつながりを考えようとするようになった。
- 《数学》図形、関数領域など習熟度の差が大きくあらわれるところでは単元を通して習熟度別学習を試みた。コースに応じて、学習シートを準備したり、自分で解決方法を見付けることができる課題を提示したりした。  
→全員が何らかの方法で課題を解決することができた。
- 《理科》一人一実験、二人一実験を多く取り入れた。  
→実験、観察の技能が身に付いた。
- 《英語》文法の導入や表現にかかわる活動は一斉指導で、読みとりの活動は学習スピードや理解に差が出てくるので習熟度別学習をおこなった。また、単元テスト後に復習の時間を設け、習熟度別を取り入れた。  
→一斉指導よりも学習スピードに合わせて進められるので理解が深まった。表現活動はあえて一斉指導にしたが、多くの表現に触れることで表現の幅が広がった。  
ヒントカードは答えそのものではなく、答えに至る道筋を示したものにした。  
→考えて調べる姿勢が身に付いた。
- 《音楽》「表現」することを中心にしながら、「鑑賞」「調べる作業」、「コンピュータの活用」などを組み合わせながら、多角的に音楽に取り組むようにした。  
→興味・関心が高まり、表現力の向上につながった。
- 《保体》達成度を確認できるカードを使用し、進歩や上達が分かるようにした。  
→カードを活用し、意欲的に取り組む生徒が出てきた。
- 《技家》製作、実習等の体験学習において、ゲストティーチャーとTTを実施した。  
→専門を生かした個別指導が充実し、自信や興味につながった。
- ④ 学び合いの工夫
- 《国語》具体的な立場や視点を明確にして話し合う場を設定した。  
→根拠をもち、自分の考えを自分のことばで話すことができるようになった。  
評価の観点を明確に示し、相互評価も取り入れた。  
→評価への抵抗感がなくなり、評価を生かそうとするようになってきた。
- 《社会》単元の終わりなどに適切な課題を設け、既習事項をもとに話し合ったり、レポートにまとめ、相互評価したりする活動を取り入れた。  
→自分のことばで伝えようとする姿勢が見られるようになった。
- 《数学》課題を解決して、発表し合い、他の考えを聞く場を設定した。  
→友達の考えをしっかりと聞こうとする態度が見られるようになった。
- ⑤ 自己評価の工夫
- 《英語》観点別の自己評価カードを工夫した。

→自分の力を知る手がかりとなった。

【学力調査，生徒アンケートから】

◎県学習状況調査 2年生 合計平均 H14 -4.9% → H15 +1.8%  
 県平均と比較 3年生 合計平均 +1.8% → +3.8%

◎生徒アンケート

学校での授業はよく分かりますか。 H14 H15  
 2年生 はい 51.2% (昨年度) → 71.7%  
 3年生 はい 63.9% (昨年度) → 70.4%  
 勉強が好きだ。  
 1年生 はい 44.9% (4月) → 47.1%  
 2年生 はい 30.2% (昨年度) → 52.3%  
 3年生 はい 43.9% (昨年度) → 50.1%

	1年	2年	3年
学校での勉強は楽しいですか。	82	74	70
課題や質問などに、自分の意見をもったり発表したりできましたか。	47	47	54
めあてをもって学習に臨んでいますか。	68	52	70
コース別学習など、自分に適した学習方法を選んで取り組むことができました。	85	78	88
友達の見聞を聞いたり、自分の考えを発表したりなどにより、学習を深めることができましたか。	69	59	78
振り返りを次の学習に生かすことができましたか。	76	58	78

『はい』を%で

2 今後の課題

(1) 今年度の課題

- ・昨年度は、授業改善とともに学習環境整備にも力を入れてきた。今年度は授業改善に焦点化し、実践研究を進めてきた。授業改善共通実践事項を設定し、全教科で取り組むなど、形として一歩進んだが、より内容を充実させることが必要である。
- ・特にめあてをもって学習に臨むことが十分にできていないので、課題意識をもたせることや、めあてを一人一人にもたせる工夫がさらに必要である。また、思考力や表現力においてまだ弱い傾向にあるので、その基礎となる知識・理解・技能を定着させたり、生徒の考えを生かしたりすることが大切である。
- ・TTは数学、英語で行われてきたが、実情に応じて他教科へも広げていきたい。
- ・成果の普及の仕方については、今年度は郡内とフロンティアスクールだけと限られたものであった。

(2) 来年度の取り組み

- ・授業改善を今後も継続しつつ、より充実させる必要がある。
- ・単元や題材によって柔軟にTTを導入できるような体制を考えたい。
- ・より広く成果を普及していきたい。

IV 学力把握のための学校としての取組

調査	実施内容
学習状況調査	4月(NRT), 7月(秋田県学習状況調査)に5教科で実施
授業アンケート調査	各教科で実施
学習アンケート調査	年2回実施

V フロンティアスクールとしての成果の普及

1 研究会，説明会等の開催

普及のための取り組み	期 日	主な内容
中間公開授業研究会	11月5日	授業公開(国語, 数学, 英語)
フレンドシップ方式	9~11月	町内中学校数学科, 英語科教師との研究の連携
小・中連携	年間を通して	研究授業参観
町学力向上研修会	8月, 12月	本校での取り組み紹介など
町研究主任会	各学期数回	研究実践の紹介
郡研究主任会	年2回	研究実践の紹介

2 ホームページの作成

研究内容を紹介。

◇次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】             3学級以下                       4～6学級  
                          7～9学級                       10～12学級  
                          13～15学級                     16学級以上

【指導体制】             少人数指導                       T Tによる指導  
                          その他

【研究教科】             国語             社会             数学             理科  
                          外国語         音楽             美術             技術・家庭  
                          保健体育     その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無